

美人画研究会 Zoom開催報告

■2023年10月31日(火) 19:30~21:30

『おいしい顔はどんな顔?』

顔学会と連携したzoomミーティングで、前半は研究会の「味覚を感じる美人画」作品紹介とスライド発表を、後半は顔学会の諸先生方を交えてのディスカッションを行いました。

作品紹介では、味覚による表情表出には反射的なものと思えるものがあること、「おいしい顔」には食べている顔、味わっている顔、食後も継続する顔があることを、対応する作品でお見せしました。また、甘味・酸味・辛味を表す色と形を女性の口元に描いた河合直樹さんが、基本味覚に対応する色と形をスライドで説明し、お酒がテーマの美人画を描いた城戸崎雅崇さんが、お酒にまつわる様々な人物表情をスライド発表しました。

「おいしい顔はどんな顔」をスライドにまとめた松永は、おいしい顔に決まりはなく、幸せそうな顔になるのは脳内物質セロトニン等が関与していること、おいしさは心理的影響や状況によって左右されることなどを紹介しました。メンバー紹介の際に斎藤忍先生が放った「おいしい時は無表情」という言葉は、後半の討論でのキーワードになりました。

原島博先生は「おいしい話には気をつけろ」というが、おいしい顔にも気を付けねばそれはどんな顔だろう。おいしさは味そのものよりも誰と一緒に食べるのか、誰が作ってくれたのかで左右するだろうとコメントされました。

林純一郎先生はお子さん達のおいしい顔の経年変化をスライドで紹介され、「おいしい」は主観的評価だが「おいしい顔」は客観的評価なので、機械学習による評価や生成AIでの作成が可能かもしれないと話されました。

後半のディスカッションでは、菅沼会長の「おいしそうに見える顔はどんな顔だろうか」という問いかけに、橋本憲一



郎さんが「似顔絵作家にとってはカンタンに描けるぞ! と思える顔」と答えてくれましたが、なるほどその通りだと思いました。又、今井健雄さんが話してくださった、無表情で食べる奥様とのエピソードは大変楽しく興味深い内容でした。

今回ハウス食品より「おいしさの見える化」に取り組んでいる玉置麻理さんが参加され、個食と共食では表情が異なる点、「パフォーマンスとしてのニンマリ顔」がある、という点について教えてくださいました。この共食については馬場悠雄先生もその重要性を熱弁下さいました。

様々な意見が飛び交いましたが、「おいしい顔」とは「喜びや幸せが滲み出ている表情」(田中晃さん)だという思いを強くし、さらにそれは共食により「相手に見せる社会的表情」(渡邊伸之先生)であると学ばせていただきました。(松永 伸子)

※詳細は美人画研究会HP内「日本顔学会関係」のページをご覧ください。



〈検索〉美人画研究会／日本顔学会関係

<https://bijingakenkyukai.jimdofree.com>

※2023年11月26日(日)第31回美人画研究会
テーマ: 触覚を感じる美人画 開催いたしました。

詳細は美人画研究会HP内「研究会の内容・第31回」をご覧ください。



2023年度日本顔学会総会報告

フォーラム顔学2023の1日目、10月14日(土)に2023年度日本顔学会総会が行われました(於: つくばカピオ・ホール)。

総会は会長の菅沼さんの開会あいさつで幕を開けました。

はじめに、昨年度の報告として菅沼さんより会勢報告および活動報告が行われました。つづいて、会計担当理事の高野さんから昨年度の一般会計報告の説明の後、監事の武川さんより会計が適正に処理されている旨の会計監査報告が行われました。昨年度の決算報告は、会員の皆様の多数の拍手により承認されました。

つぎに、今年度の活動中間報告として菅沼さんより開催中のフォーラム顔学2023の概況につづいて、学会の定常的活動の他、公認サークルの活動内容が報告されました。また、

今年度より電子版に移行する学会誌、および会員の皆様に印刷物としてお届けする「顔学通信」発刊についての説明が行われました。

そして、菅沼さんからフォーラム顔学2024(岩手県立大学、アイーナ[岩手県盛岡市])を含む学会活性化を目指した来年度の活動計画、高野さんより2024年度の一般会計予算案が提議され、最後に菅沼さんから2024~2025年度の役員構成が提議されました。これらの提案はご参加の皆様の満場の拍手によって承認され、今年度の総会は予定された議事を滞りなく終了して閉会となりました。

2024年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(総務担当理事 今井 健雄)

ご意見・ご感想募集中

今年も1年間、ニュースレターを読んで頂き有難うございました。編集委員では一緒にコンテンツを考え、学会を盛り上げてくださる方大募集中(ご意見・ご感想の記入フォームはこちら)です!



発行: 日本顔学会 © 編集・製作: 日本顔学会 J-FACE 編集委員会 日本顔学会事務局
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 バレスサイドビル 7F 株式会社毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550 FAX: 03-6267-4555

発行日: 2023年12月25日 *無断転載を禁じます。

J-FACE NEWS LETTER

日本顔学会ニュースレター 83号

25 DECEMBER 2023 Vol.83 <https://www.jface.jp>



Contents

- P1~2. 第28回日本顔学会大会(フォーラム顔学2023)開催報告
- P3. 日本顔学会若手交流会報告/顔学オンラインサロン報告(第51回)
- P4. 美人画研究会Zoom開催報告/2023年度日本顔学会総会報告/編集委員会だより&ご意見フォームの案内

第28回日本顔学会大会(フォーラム顔学2023)開催報告

フォーラム顔学2023は、2023年10月14日(土)、15日(日)にて、つくばカピオ(つくば市)において対面と配信のライトハイブリッド形式で開催いたしました。現地参加159名、オンライン参加28名からなる計187名により、活発な議論が交わされる賑やかな大会となりました。

開会式



会長の菅沼薫さんからの挨拶、大会長の鈴木による開会宣言により、大会が始まりました。学会のテーマを『人々のための顔~顔の技術と社会受容性』として、話題の生成AIにてデザインされた大会イメージポスターの紹介に多くの参加者が興味深く関心を寄せるオープニングとなりました。

口頭発表

口頭発表は、2件オンライン発表を含む23件(6セッション)の発表があり、顔学に関する先進的かつ興味深い研究発表があり、活発な議論が行われました。



ポスター発表

ポスター発表は19件(2セッション)の発表がありました。オンライン聴講者向けに、スタッフによるロケ隊がポスター会場

を周り、配信を行うこともできました。また、議論を活発にするつくば産の有名なコーヒーにも大変好評を頂いておりました。

作品展示・企業展示

作品展示は9件、企業展示が3件ありました。今回は、すべての発表が同じ会場付近に設置しており、熱気あふれる議論や作品展示・企業展示による体験を多くの参加者が楽しむことができました。多くの参加者が恒例となった似顔絵を手にする姿が見かけられました。



特別講演

1日目は、『顔の技術』に関する特別講演として、高精度な顔認証技術と顔認証システムとしての実用化を主導してきたNECフェローである今岡仁先生(NEC)より、「生体認証技術の進化と価値創造~「顔」でつながる新たな社会像~」と題してご講演いただきました。



2日目は、トリーチャーコリンズ症候群の当事者で、聴覚障害研究者である石田 祐貴先生より、「社会的に異形な顔貌を巡って」と題してご講演頂きました。顔面の骨の形成不全による特徴的な顔貌をもつ、トリーチャーコリンズ症候群の当事者である石田先生より、異形な顔とみなされる背景に関わる要因、また異形な顔がもたらす困難やその対応等の事柄について体験談を踏まえて講演を頂きました。

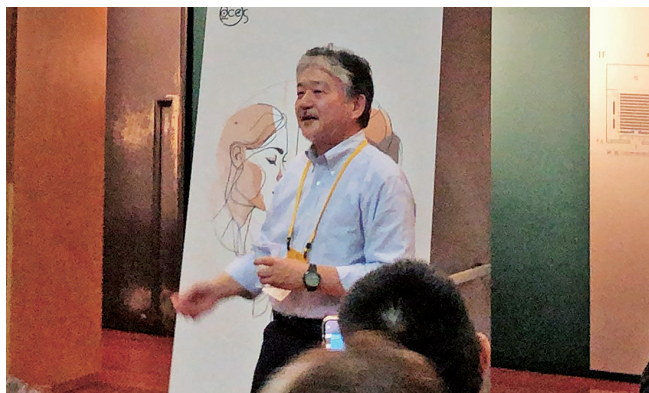


■特別企画セッション

今回、新たな取り組みとして、顔の技術と社会受容性のそれぞれに関する特別企画セッションを設けました。より深い議論を行うことを目的として、特別講演を中心として指定討論者に壇上に上がってもらい、対話形式でより議論を深める形式です。会場からの質問もあり、対話により学術的な議論を行う学会らしい一面に多くの参加者からも好評を得ることができました。

■イブニングシンポジウム

こちらも数年ぶりにアルコールを含めて対面でのイブニングシンポジウムを行うことができました。つくばの飲食店から来たキッチンスタッフによる軽食、つくば産の地ビールやワインを手多くの人が笑顔で交流をする姿が見られました。特に、「JFace」のロゴの入ったマカロンは大人気で、多くの人が手に取って写真を撮られていました。最後に、次回大会長の桐田隆博先生から、日程や会場のご紹介がありました。



■原島賞・興水賞

原島賞は、高橋征仁先生による「女性の配偶戦略と男性平均顔の脱男性化との関連についての検討」、興水賞は、大石貴矢先生らによる「顔画像の解像度間で生じる魅力評定値の差に関連する顔の三次元特徴」へ贈られました。副賞として、原島先生の著書、またJAXAのあるつくばらしい宇宙食がかわせて贈られました。



■オーディエンス賞

参加者投票によるオーディエンス賞として、口頭発表部門では、遠藤洋さんら多くの学生プロジェクトの成果である「時代ごとのアイドルの顔分析とバーチャルアイドルの生成」、ポスター発表・作品展示部門では、清澤はな先生らによる「顔の形状変化－姿勢変化に伴う“うつむきジワ”－」が受賞されました。

■閉会式

大会長の鈴木による閉会の挨拶により、本大会は閉会となりました。顔は自分のためだけでなく、互いに助け合って生きるための顔である、という理解が大きく深まったものと考えています。一方、オンラインでの受付システムの導入、電子書籍による予稿集の案内等、大会の電子化が大きく進んだ会でもありました。また来年、岩手の地で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

(フォーラム顔学2023 大会長 鈴木 健嗣)

■フォーラム参加者の声

会場ホールは活気に溢れていた。それぞれのブース担当者は参加者に囲まれ、一生懸命に質問に答えている様子があちこちで見えた。「顔」というのは、様々な学問からジャンルまで展開できてしまう面白さを一挙に見られる場であった。最先端技術を体験する場もあり、顔を3Dスキャンしアバターを動かすデジタルヒューマン技術やヘアスタイルの提案をするミラーなど、顔×AI市場がいかに大きいのかを改めて実感した。ユニークだったのは、最先端技術だけではなく似顔絵作家集団のブースがあった点だ。AIの見た目判断ではなく、人という目を通して自分の顔（個性）を描いてもらえるというのは温かさがあるのだと感じた。まさに「AIと人」の違いを体感する空間が作られていた。口頭発表も専門家からの新たな視点が聞け、今まで考えてこなかったような情報を得ることができた。例えば「能面を見る人の脳波」や「漫画の目の大きさ」や「顔の影が持つ意味」など、この学会でしか聞けない内容であろう。特別講演者や有名な先生方とも直接話ができて、「顔」が身近であるように、フォーラムも親しみやすい雰囲気になっていました。来年のフォーラムを心待ちにしたい！

(新木 美代)



日本顔学会若手交流会報告

第28回定期交流会は、2022年11月12日にオンラインにて開催されました。金城学院大学の貝沼明華さんをお講師にお迎えし、「越境するキャラクターの顔－コスプレにおける顔の考察」について講演して頂きました。初めに、コスプレの定義や歴史、オタク文化の変遷、コスプレの現状分析などが背景として紹介されました。その後、コスプレにおけるキャラクター造形の重要性和、データベース消費によるコスプレの流行についての考察が提供されました。質疑応答では、コスプレの若者文化としての位置付けや、アニメ顔のデフォルメに関する興味深い議論が行われました。講演後は、参加者が二つのグループに分かれてさらに議論を交わしました。また、日本絵の顔の変遷からアニメの顔についての参加者からの考察も共有され、盛況のうちに交流会は終了しました。



第29回定期交流会が2023年2月12日にオンラインで開催されました。今回は東京女子大学の河原美彩子さんが講師として、「文化によってどう違う？ 顔と声による感情コミュ

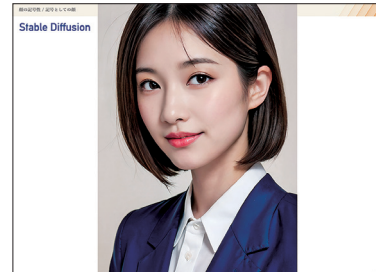
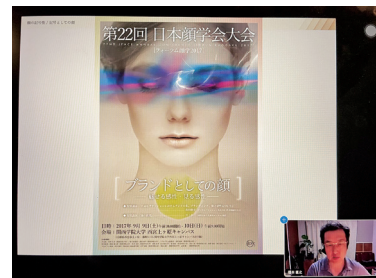
顔学オンラインサロン報告（第51回）

『最新のAIによる画像生成は凄いことになっている！』

2023年11月7日（火）20時から第51回目の顔学オンラインサロンが開催されました。

話題提供された福本直之先生は、フォーラム顔学2016（21回大会）、2017（22回大会）のポスター制作もしてくださったデザイナーです。福本先生はAIで生成された絵画がコンペで金賞を受賞されたこともある方で、先駆的にAIをデザインに活用されています。画像生成AIの進化は著しく、よりリアルな画像を制作することが出来るそうです。

紹介いただいた作品は、すでに亡くなっている著名な画家による絵画風にアレンジされたものだったり、まるで本人が目の前にいるような感じだったり、生きているような皮膚感の顔画像だったり、髪が風に優しくなでられているような自然に流れる動きだったり、身体がかすかに動いてまるで呼吸しているように見える



ニケーション」というテーマで研究を紹介しました。河原さんは、感情表出と感情認知の文化差に関する先行研究を紹介した後、日本とオランダにおける感情認知の差異と発達に伴う変化についての研究を発表しました。実験結果から、オランダ人は子供から大人まで顔による感情認知を重視し、日本人は5、6歳以降に声を重視する傾向があることが明らかになりました。今後は5歳未満の子供や高齢者を含む広範囲な対象者による実験を通して、同一文化内の個人差についてさらに研究を展開する予定です。質疑応答では、感情の文化差と個人差の比較、感情のコントロールや適応的な変化についての活発な議論が行われました。この議論は交流会の後半でも続き、参加者同士が自由にディスカッションを行い、情報交換が盛んに行われました。

日本顔学会若手交流会では、顔に関連する多様なテーマを扱う講演が提供され、毎回活発なディスカッションが展開されています。顔研究に興味を持つ方々の間での交流を促し、知見を拡大し親睦を深める機会となっています。次回の若手交流会も楽しみです。

(劉 沫好)

画像だったり、未来的・宇宙的な顔画像だったりして、「最新のAIによる画像生成はこんなにすごいんだ！」思わず唸ってしまいました。

画像生成AIにはいくつかモデルがあり、今注目されているのはMidjourney（米）とStable Diffusion（英）だそうです。いずれも写真的表現力が素晴らしく、Stable Diffusionの方がよりリアルな表現ができるそうです。そのとき注意するのは、事前の顔データと意図するイメージを入力する言葉（英文）の選択ということでした。福本先生には、さらに詳しくポーズや表情などをチューニング（表現指定等）する方法もお話しいただきましたが、技術とセンスがあるからできることだと思いますが、さらりと操作している様子でさっと変化する画像に使ったことの無い私には感嘆とともにため息も出てしまいました。クリエイティブな業界では、AIによって制作が脅かされることや著作権、肖像権、社会ではフェイク情報なども問題になっているそうです。質問コーナーでも多くの意見が出ましたが、新しい技術をどう使いこなし、どう利用して、どうアピールするかは人々の心の問題と感じました。

このように、51回も多くの方に参加いただき大変興味深いものでした。なお、今回は12月12日（火）20時から、中村剛さん（合同会社似顔絵倶楽部代表／心似顔絵塾塾長）による似顔絵教室です。みなさまのご参加をお待ちしております。

(菅沼 薫)